



原発輸出は見込みゼロ！ 安倍は責任をとって辞任せよ！

トルコでも英国でも

原発輸出撤退へ

政府は、三菱重工業とトルコで進める新型原発建設計画について、トルコ政府に大幅な負担増を求める最終条件を提示する方針を固めました。



安全対策費の高騰から事業費が当初の二倍超の五兆円規模に膨らみ採算性が悪化したためだが、トルコが受け入れる可能性は低く、事実上の撤退となる見通しです。

一方、日立も英国で基本的建設計画を進めてきましたが、中西宏明会長が昨年十二月、事業費増加を受けて「もう限界だと英政府に伝えた」と述べ、現計画は実現困難との認識を示しました。

両事業が頓挫すれば国内外とも受注案件はゼロ、

安倍政権がインフラ輸出戦略の柱に掲げる原発輸出そのものが白紙に戻ります。

リスクは日本もち

そもそも原発を建設する場合、電力会社が発注し、原発メーカーはそこに納入するだけでした。しかしトルコや英国の場合、原発メーカー（もしくはメーカーが関与した事業体）が発電所の建設だけでなく、その後の運用まで引き受けること

になっています。

つまり発注側であるトルコや英国は、電力に対して対価を支払うだけで、原発そのものが抱える各種のリスクを負わない仕組みとなっているのです。

これでは儲けが出るはずもなく、欧米のメーカーはすでに撤退しています。

原発輸出撤退はうれしいニュースですが、多額の税金を使い原発輸出を推進しようとした安倍は責任をまぬがれることはできません。安倍は責任をとって辞任せよ！

アート・アド分会 N